## 安部先生指導・助言

【外国語・外国語活動と特別活動】

●平井西小は普段の研究は外国語を中心に進めている。外国語活動は、英語が話せることだけが目的ではない。相手が何を言っているのか、相手にどう伝えるのかが大切で、これは特別活動にとても大きく関わる。

【提案授業】

●指導案を拝見した際「新しい学級会の提案です」と校長先生から言われ、すごいな、先生の思いがすべて込められていると感じた。学級会では特に、目的をもって、具体的で効果的な話し合いをしたい。

●今日の 6-2 の学級会は互いの良さを認め合う姿、定例句の「いいね」ではなかった。

●「こんなの作りたい」から実際に作ってみるところまで想像させる。何で作るの？どうやって作るの？具体的な案も検討させる。

●完全に意見が一致する班もあったり、全員違う班もあったりするなかで、最終的には自分の思いを自分で言える子に育てることが大切。

●今回の学級会では手順が児童自身よくわかっていた。（いきなり話し合ったのではなく、１人３つずつ意見を出し合い付箋に書く）やることが明確になっていることで、児童が見通しをもてた。

●反対に、全体での話し合いがあると良かった。今回は意見の集約を代表者（ファシリテーター）が原案を出し、疑問や質問をうけて全体で案をもんでいく形だった。だからこそ「不満はありますか？」の声掛けは素晴らしかった。それがファシリテーターの意見ではなく、みんなの意見にする作業だった。

●次の話し合いの場で、担任から「前回こんなことよかったね、今回は実際に作るところも想像しながら考えよう」など、視点を明確にして進めさせると良い。

●シンキングダーツの中で、似た意見の分類だけではなく、対象は？テーマは?目標は？と各視点分けさせるとよい。

●児童からでた反省で「時間がたりなかった。」があった。「どうしてだろう？じゃあどうやったらよいと思う？」のように先生がかみ砕いて児童へ振り返らせる。（反省を挙げるだけではよくない）

●小集団での活動も効果的だが、集団の一員としての視点を持たせていくことも大切。

●今回の学級会のリーダーをいろんな児童に体験させていくとよい。

【学級会全般】

●担任が「こうしよう」とすると、「先生次どうするの」になってしまう。児童一人一人が考えて、協議しあうことが大切「子供から出る子供自身の言葉」を重要視してもらいたい。

●合意形成において大切なことは、優先順位をつけてかんがえること、経験させて、発展させること。

●なにより自発的であることが重要。目標を達成することが大切なのではない。

●話し合いにおいて、自分の意見が決まることはほとんどない。大事なのは「どんな思いで作ったの？」「みんなにとってよいものはどういったもの？」「あなたが意見を出してくれて、全体が良くなったね」と声掛けすること。

●担任は共感的思考で子供の思いを大切にしながら導く役目を担う。

【特別活動についてなど】

●特活は知識技能の教授ではない。実践活動や体験活動を通して体得することが大切。

●学級会だけでなく、各教科で学習規律として発表時は大型黒板を見て（手元でタブレットを見ない）相手の顔を見て発表すると良い。なかなか意見がもてない子は、コメントに反映する方法で安心することができる。